

鯉 種 苗 生 産 試 験

佐々木 正 明
梶 田 恭 道
狩 野 武 俊

I 目 的

前年度に準じて行なった。

II 期 間

1977年4月1日～11月30日

III 結 果 と 考 察

1) 採卵, ふ化

5月上旬に, 親魚の抱卵熟度に留意して選別を行ない, 採卵を行なった。

採卵, ふ化共に良好で, ふ化期間中の水生菌の発生を防ぐため, 隔日毎に5 ppmの マラカイドグリーン溶液で消毒を行い, ふ化期間中は水生菌の発生もなく, ふ化毛仔を得る事ができた。

採卵, ふ化の結果は表1の通りである。

表1 採卵, ふ化状況

月日	種別	新魚数	採卵数	ふ化率	備 考
1977. 5.13	真 鯉	♀ 15 ♂ 34	推定 170万粒	80%	14, 16, 18日マラカイドグリーン5 ppmで30分間薬浴
"	色 鯉	♀ 4 ♂ 10	推定 45万粒	78%	

2) 施 肥

5月上旬に, ふ化毛仔の初期餌料となるミジンコの発生を促進するため, 稚魚池12面(3,750 m²)に消毒をかねて石灰撒布を行ない, 乾燥鶏糞を施肥し水張りを終了した。

ミジンコ発生は全池共良好であったが, 一部の池にカイミジンコの発生が見られた。

当分場では, カイミジンコの発生は従来見られなかったことである。

3) 餌料

育仔・實仔養成期間中に使用した餌料の種類及び数量は表2の通りである。

表2 給餌状況

種類	育仔	實仔	親魚
小麦粉	171kg	40kg	50kg
配合粉末	1,220	166	480
干蛹	45	16	—
クランブル	—	3,642	—
ペレット	—	440	298
合計	1,426kg	4,304kg	778kg

4) 育仔養成

検苗した毛仔は、真鯉を10面池、色鯉を3面池に放養した。毛仔の放養後4日目から水餌を撒餌し、10日目から池壁の周囲に8～10個の吊餌により給餌した。

毛仔の放養時、一部の池にカイミジンコの発生が見られ、毛仔には特に影響はないように見られたが、今後観察の必要がある。

他所においては、カイミジンコの食害が観察されている。放養直後から、アオミドロ、アミミドロが発生したので、すくい取り作業を反復して行ない、除去に努めた。6月下旬に、育仔選別と稲田用種苗の配布をかねて、全種苗を取り揚げ計数をした。

5) 實仔養成

實仔の養成は、これを取り揚げた後にミドロ類、水草等を除去整地し、1～3gのものを体重別に選別して放養した。

給餌管理は、作業の省力化を計るため、市販の配合餌料(クランブル及びペレット)を使用した。給餌回数は、1日4～5回給与した。

實子の養成には、放流、溜池種苗共に大型化が望まれ、大型種苗の生産に努めた。

取り揚げ結果は、体長13～15cm、魚体重30g前後の種苗が63%を示した。育仔・實仔の養成結果は表3の通りである。

表3 養 成 結 果

種 別	毛仔放養数	育 仔 取揚げ数	育仔 毛仔×100	育仔放養数	實 仔 取揚げ数	實仔 育仔×100
真 鯉	900千尾	486千尾	54 %	160千尾	120千尾	75 %
色 鯉	250千尾	132千尾	52.8 %	—	—	—

6) 配 布

生産種苗の配布は、市町村、農協、漁協を通じて配布を行なった。配布状況は表4の通りである。

表4 配 布 状 況

種 別	稲 田 用	放 流 用	留 池 用	合 計
真 鯉	62,000尾	26,800尾	6,700尾	95,500尾
色 鯉	41,100	—	—	41,100